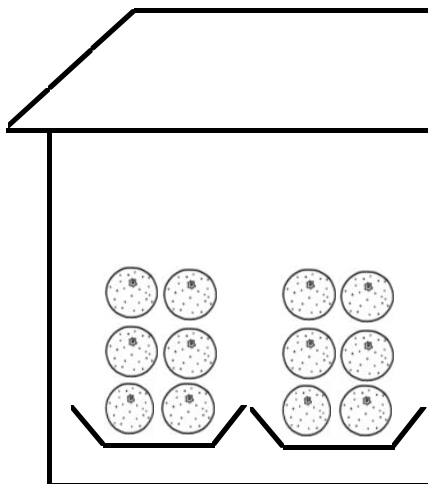
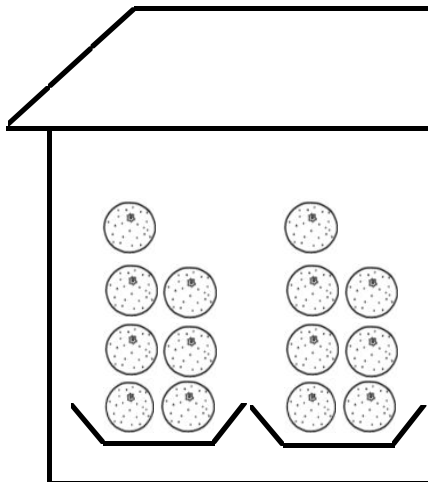
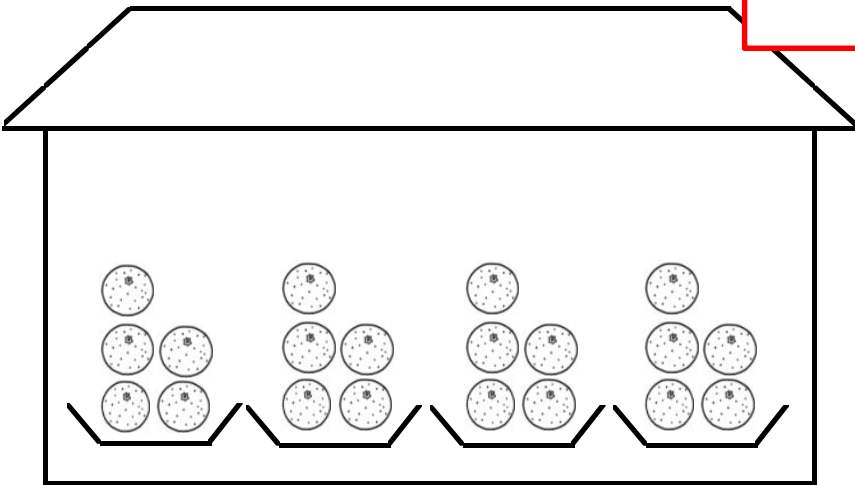


みかんの おなじやさんが いっぱい ならんでいます。
おきやくさんに なんこずつ うっているか すぐわかるよ
うに するには、どうすれば いいでしょう。

(1)かけざんの意味
② 1あたり量
資料3~6 2時間



本時の目標
・かんばんは、1さらに何個ずつ入っているか表すものであることを理解させる。
(かんばんを通して、1あたり量の意味を理解させる。)

「どのさらにも同じ数ずつものが入っている」ということが、1あたり量の意味である。

1. 課題 プリントの通り

2. 各自考える

<予想される子どもの考え>

- ◇ プリントのお店屋さんの絵に付け加える。
 - ・付け加える場所
 - ・書き方(絵・数字・言葉)
- ◇ スピーカーで「〇〇個やさんです。」と放送する。

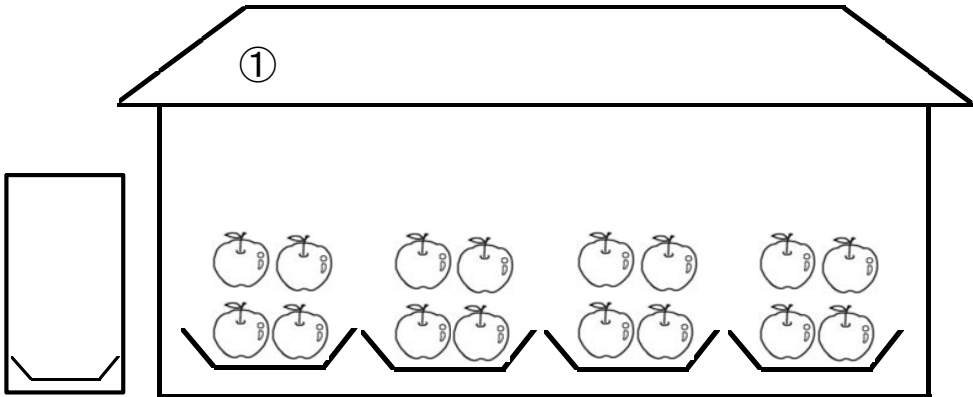
3. 発表する
どの考えも認める

4. まとめる
かんばんを店の横におくようにまとめる。

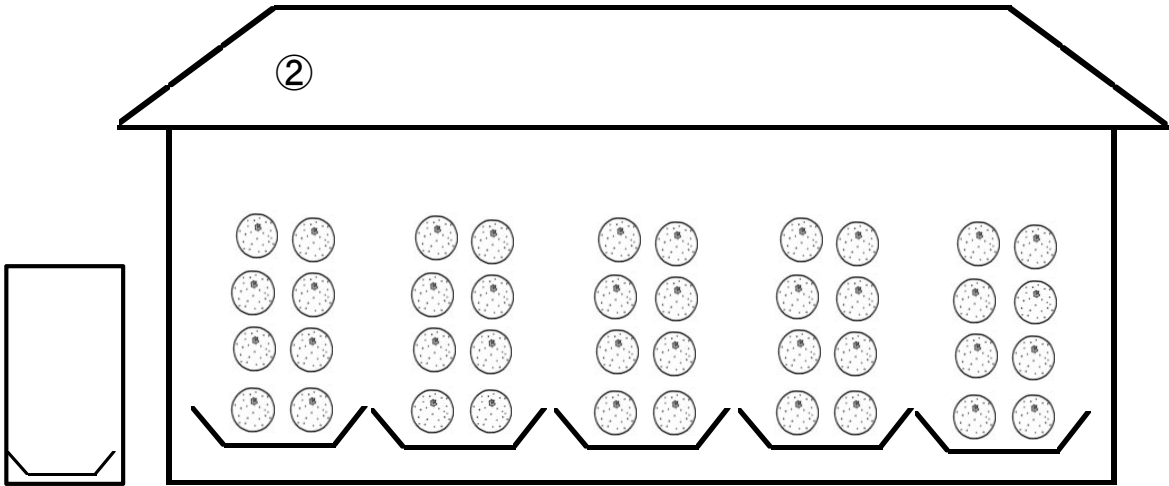
5. 発展
「ぜんぶで何個あるか、答えを求めましょう。」

おなじやさんが あります。
かんばんに 数字を 書きましょう。
また、ぜんぶで いくつ あるでしょう。

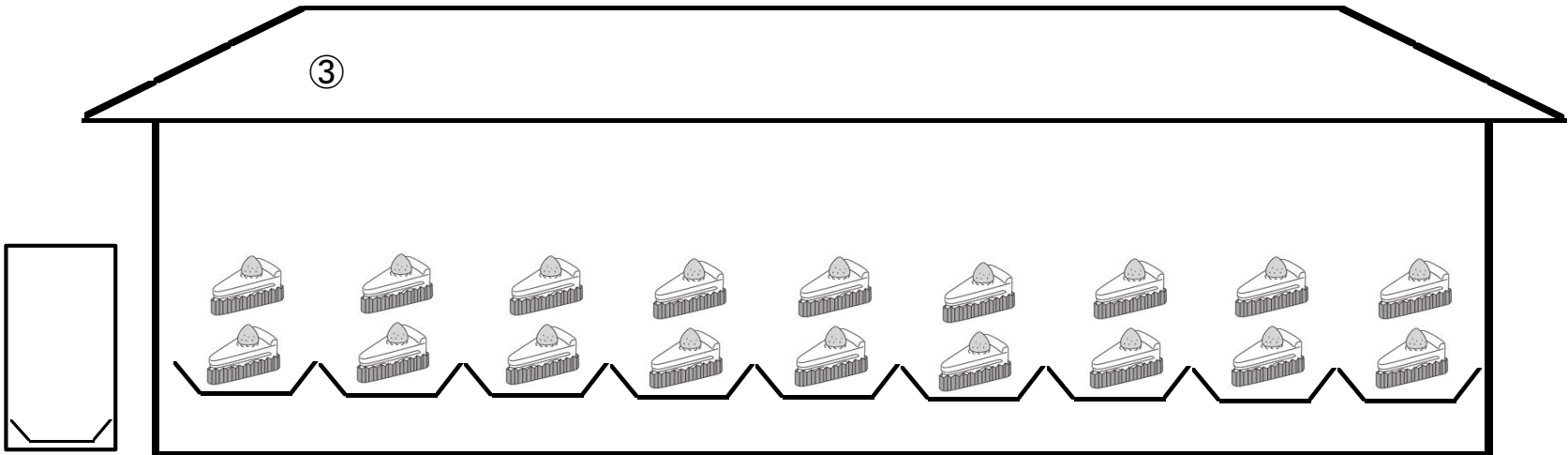
資料3の練習問題
家庭学習用として作成した。



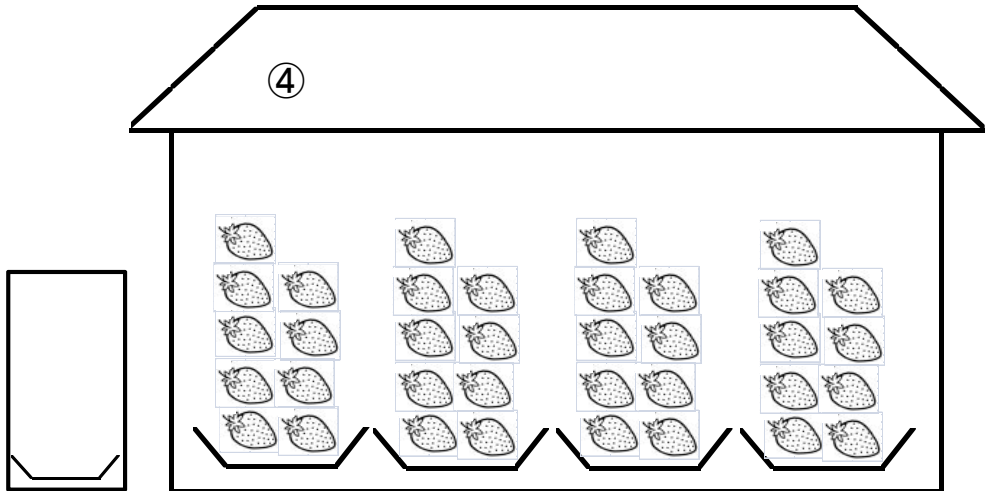
ぜんぶで _____



ぜんぶで _____



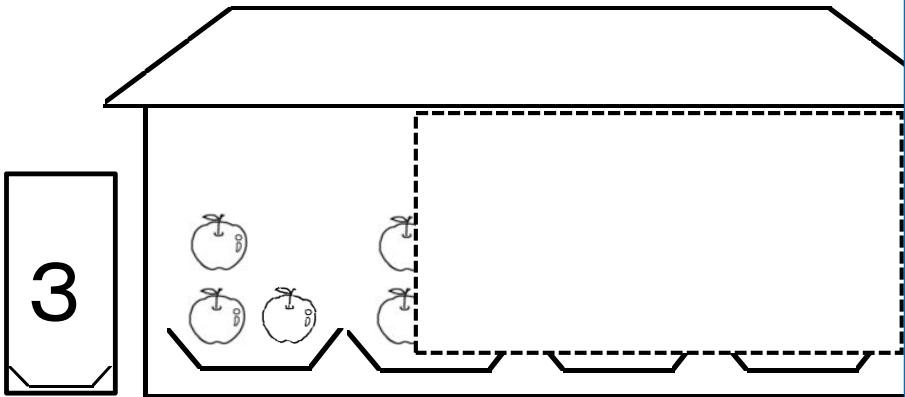
ぜんぶで _____



ぜんぶで _____

おなじやさんが あります。カーテンが ひかれていますので、みせの 中の りんごがよく見えません。

おなじやさんの みせの中の みかんは、ぜんぶで なんこ あるか かんがえましょ



本時の目標

- ・かんばん(1あたり量)とさらの数(いくつ分)が分かれば、全体量を求めることができることを理解させる。

1. 課題

おなじやさんの みせの中の みかんは、ぜんぶで なんこ あるか かんがえましょ。いろいろくふうしてください。

2. 各自考える

<予想される子どもの考え>

① 絵にかいて、数える。

② さらに数字を書き込んで考える。

③ $3+3+3+3=12$

④ $3 \times 4 = 12$ (既に掛け算を知っている子)

3. 発表する

4. まとめる

かんばんとさらの数がわかれば、ぜんぶの数を求めることができる。

考察

実際に2年生を担当したことがないので、2年生の発達段階ではどの程度理解できるのか確認がないが、個々の子どもが自分なりの考えをまとめ発表する段階で、子どもの思考を様々に揺さぶることができるものと考えている。

右の<予想される子どもの考え>を比較すると、授業のいろいろな場面をイメージすることができる。

具体物のリンゴの絵をかくより抽象的な数字で書く方が早く楽に答えを求めることができる。(①②の比較)

また、リンゴの絵のかわりに半抽象的な○で代用する子どもいるかもしれない。これは、丁寧にリンゴの絵をかくよりずいぶん楽である。後日指導する予定のタイルの導入に発展する考えである。(右の<予想される子どもの考え>では省略している)

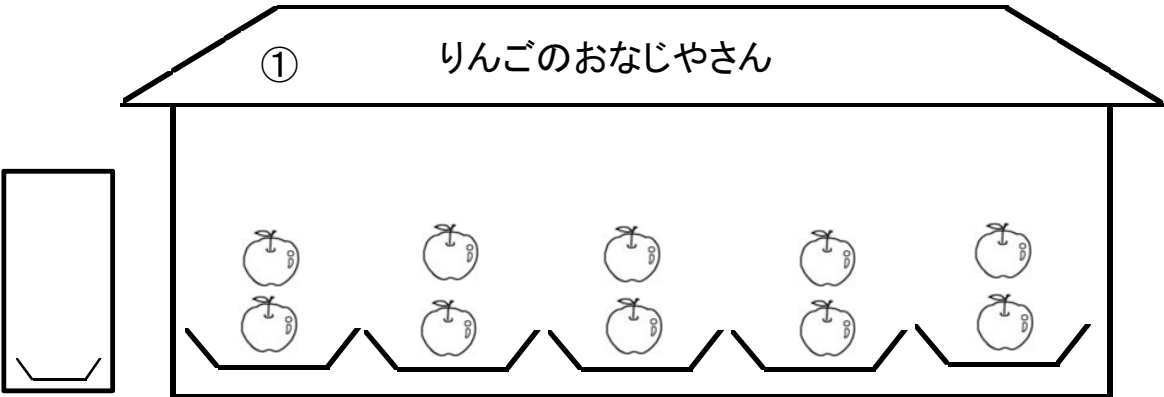
さらには、皿に絵や数字をかきこまずいきなり③のように足し算に入る子もいるかもしれない。この子はお店屋さんの仕組み、即ち看板・皿・りんごの位置関係が頭の中にイメージできているものと考えられ、2年生としては発達の進んだ子である。

「数学的能力のモデル」によれば、2年生(7才)にはだいたい5才児から9才児ぐらいの能力の子が同居しているといわれている。ですから、この段階の指導では、無理をせず答えさえ導きだせば、どの方法でもよいという姿勢で臨むべきである。しかし、具体物で解決する子、半具体物で解決する子、抽象的に解決する子と様々な解決方法を学級の全員の子に提示することは、それぞれの発達段階にある子にそれぞれの刺激をあたえる上で重要であると考えている。

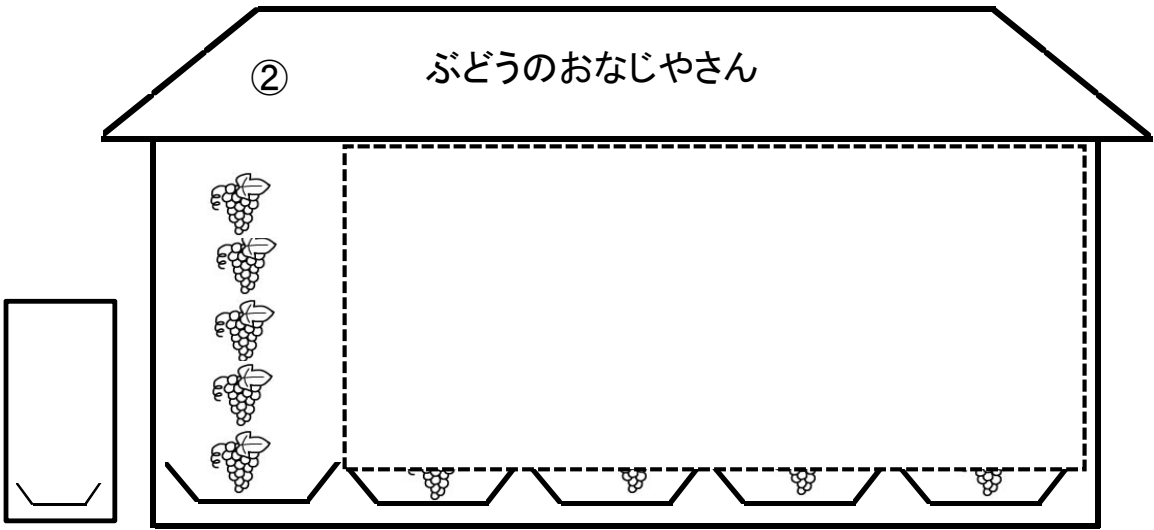
上は、この「九九の指導」全体を貫く、根本的な考えである。

おなじやさんが あります。
かんばんに 数字を 書きましょう。
また、ぜんぶで いくつ あるでしょう。

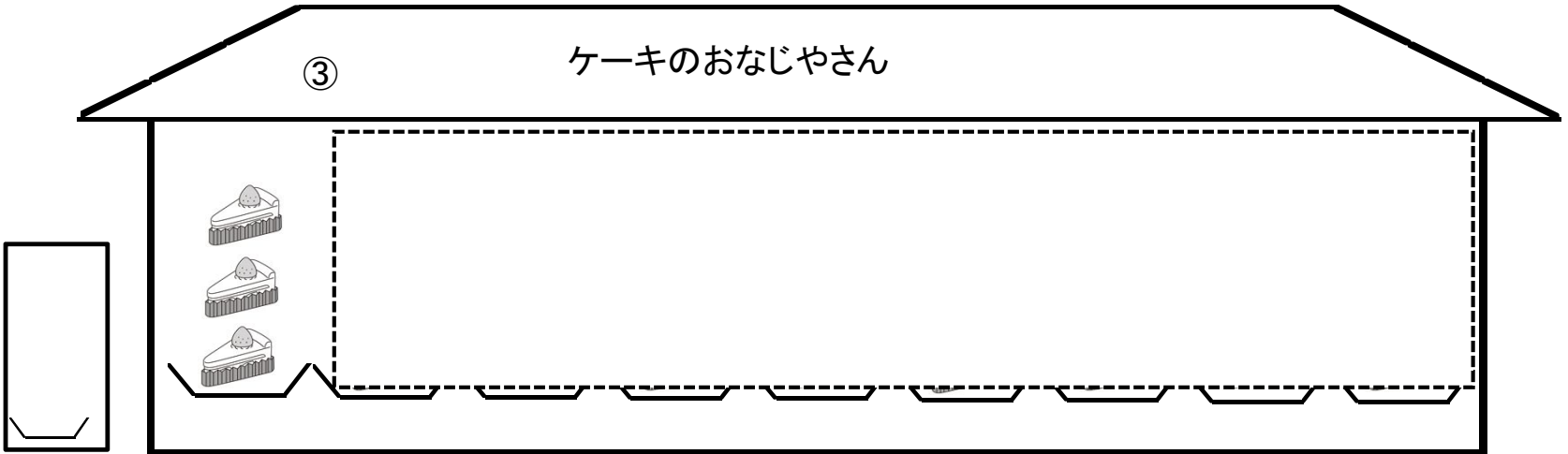
資料5の練習問題
家庭学習用として作成した。



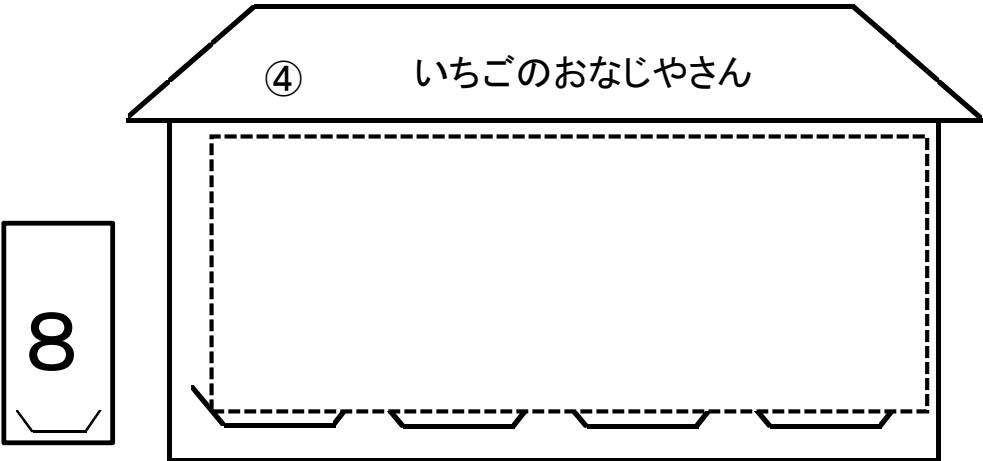
ぜんぶで _____



ぜんぶで _____



ぜんぶで _____



ぜんぶで _____